

日本民家園だより

第1号

発行 60. 8. 25.

川崎市立 日本民家園
川崎市多摩区井形 7-1-1
電話 (044) 922-2180-1

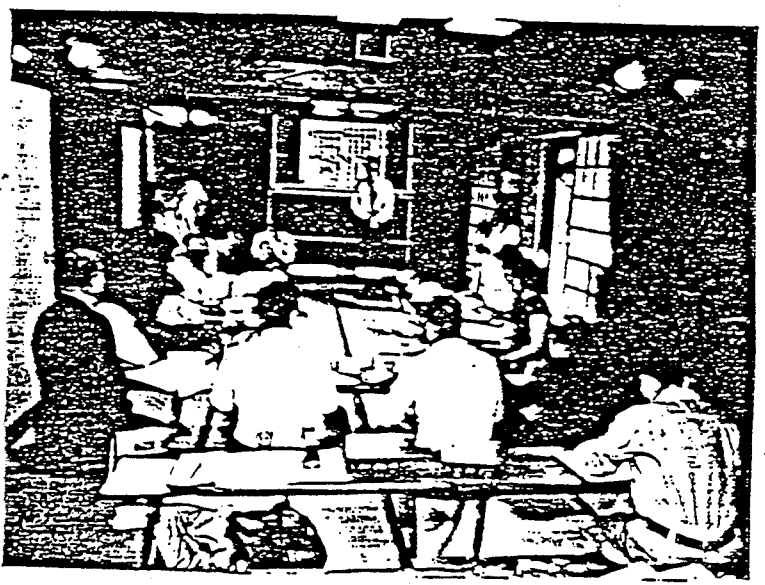
「本館建設」への夢

～第1回 民家園協議会ひらく～

7月17日(水)午後2～4時、園内白川館の学習室で、第1回目の「協議会」が9名の委員出席のもとで開催されました。

梅雨明けの暑さが厳しくなつた頃でしたが、さすがに和式建築で、民家の中を廻りと涼しく、お茶など何のそので、むしろ委員の先生方の熱い思いが会場に漲っていました。

委員状交付、兼松社会教育部長のあいさつ、正・副会長の選出で、会長に加藤先生、副会長に関口先生が承認決定、あいさつの後、永田園長から「民家園の経過と現状」の説明があり、



委員紹介(敬称略)不同)

- | | | | |
|----------|------|-----------|-------|
| 会長 加藤 有次 | 博物館学 | 副会長 関口 欣哉 | 博物館学 |
| 委員 眞子 | 社会教育 | 佐々木 昭彦 | 博物館展示 |
| 廣沢 八重子 | 社会教育 | 神崎 賢武 | 民俗文化財 |
| 牛 越 允 | 学校教育 | 藤石 達三 | 保育学 |
| 米本 眞三 | 学校教育 | 松本 秀雄 | 行政 |

引き続き園が抱えている「当面の課題」について問題が提起されました。

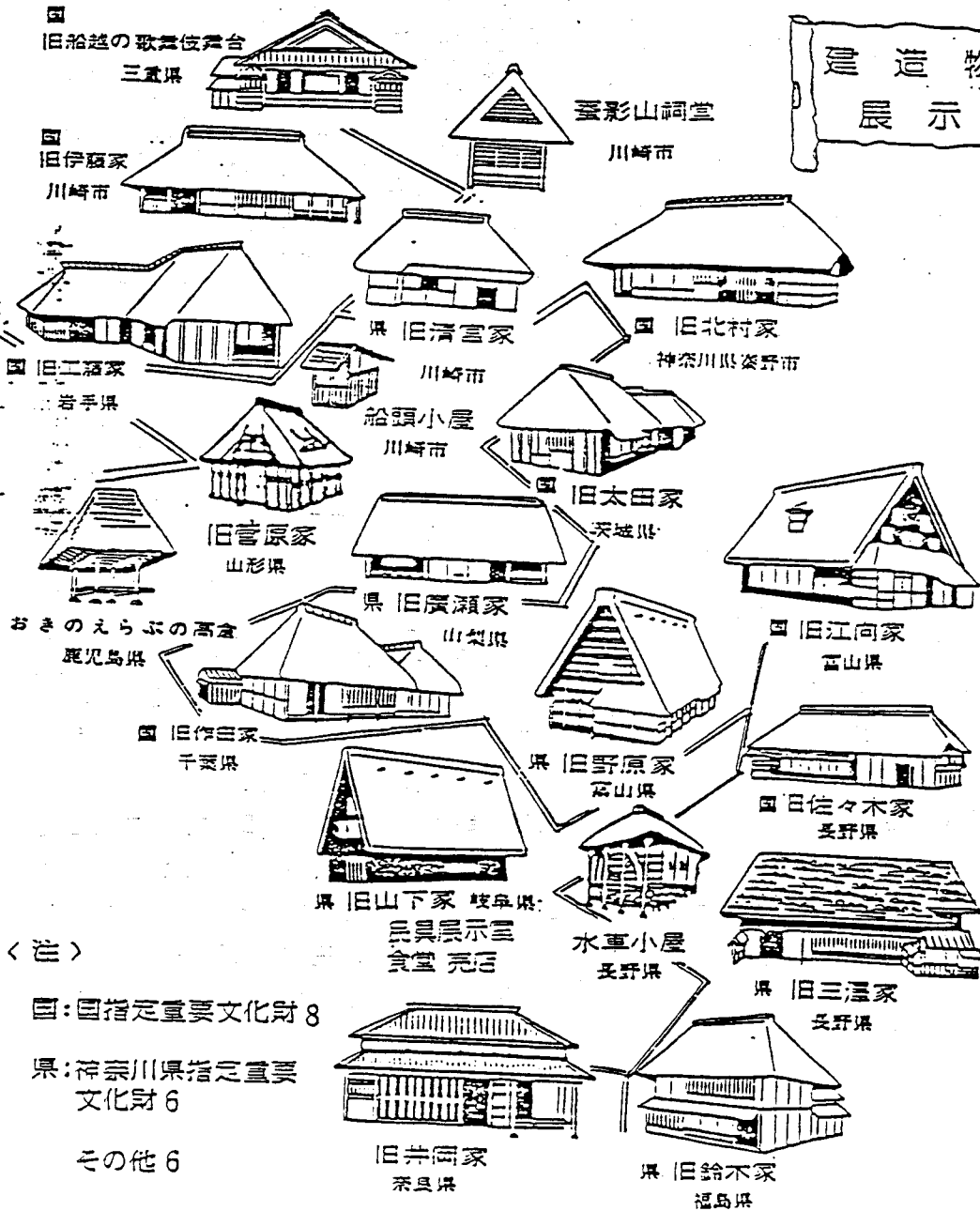
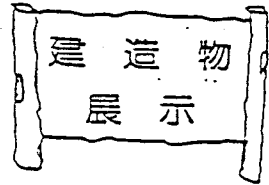
委員の主な発言内容は「滅びゆく民家情報は、現地での〈聞き取り〉でも古来の死などで困難を極めており、早急に現地調査をするよう強い要望が出されました。

また、単に古民家を展示するにとどまらず、その古民家をとりまく、すべての環境等を正しく伝えること、また復原すべき建物がほぼ完成した現況、ビジターセンター的な要素も兼ねた「本館」が近い将来構想される必要がある。さらに古文書講習会など事業面の拡充も望まれるとの提案がありました。

夢は大きく「本館建設」から〈東洋のスカンセン〉をめざしての飛躍に広がり、和やかにそして熱心な討議のうちに、第1回の協議会の幕を閉じました。

日本民家園のあゆみ

昭和39年市内多摩区全程の伊藤家住宅が国の重要文化財の指定を受けたことを機会に、市民資産として永久に保存するため、多摩区生田緑地公園内に移築することを決め、あわせてこの地域内に全国各地の代表的な古民家を移築・復原し、その野外博物館とする構想をたてました。昭和41年4月民家集落準備事務室を設置し、以後古民家3棟の移築復原が完了した昭和42年4月、日本民家園として開園し、一般に公開するとともに、着々と移築・復原を行ないながら、今日に至るまで逐次拡充をはかつてきました。



<注>

国：国指定重要文化財 8

県：神奈川県指定重要文化財 6

その他 6

旧所在地 富山県東砺波郡上平村桂

建築形式 一重三階 茅葺 切妻造
及び構造 (合掌造) 農家

創建年代 17世紀後期 (290年前頃)

受納年月日 昭和43年8月12日

解体年月日 昭和43年10月7日～
同年11月19日

平面積 205㎡ (解体時)

建造物 富山県東砺波郡上平村桂 84
寄贈者 山田善治
(寄附架納書による)

現在継承者 富山県富山市春日町1-17
山田 昭治

より白山寄りに入った県境100mくらいの
の秘境にあつたものです。民俗的には
遠縁国が飛騨との方が濃かつたようで
遺物の構造も、飛騨白川系に類似して
おり、「しやし」という部屋や平入り
であることが、それを物語っています
創建年代も約 290年前と推定され、当
初材はすべて、ヨキ・チューナで仕上
げられ、百歳を示しています。この旧
山田家が復原されることにより、三家
園では4様の合掌造りが揃うことにな
り、比較研究の材料としても、貴重な
ものとなるでしょう。

民家園では、4棟目にあたる「合掌
造」が本年復原されます。これは富
山県東砺波郡上平村桂という白川本流

注 若手・富山御田家(三富山支流の利賀村)
若手・富山御田家(三富山 白川本流の)
飛騨・岐阜御田山下家(飛騨・三川宮)
の3棟が現在民家園にあります。

9月・10月の行事

民家園の催し

映画会:文化財に関する映画

9月8日(日) ①午前10時30分 ②午後1時30分
定員 25名
観覧料 無料

体験学習教室 : 十三夜の餅ひきとダンゴ作り
9月29日(日)

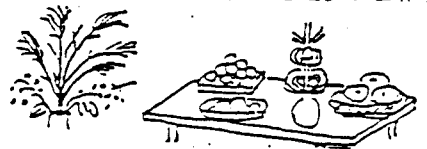
定員 20名
観覧料 無料
申込 9月1日(日)午前10時から電
話受付・先着順

民具づくり教室: わらじ作りと数珠

10月20日・27日(日)
定員 30名(2日とも参加できる方)
観覧料 無料
申込 9月22日(日)から往復はがき
で・先着順

民家会の催し

9月1日(日) 丹塗作り(ワラ細工グループ)
8日(日) アミ袋作り()
15日(日) アミ袋作り()
竹ボーキ作り(竹細工グループ)
パッタン織り(はた織りグループ)
サキ織り(はた織りグループ)
22日(日) アミ袋作り
29日(日) 十三夜の餅ひきとダンゴ作り



10月5日(日) イスメツニ作り(ワラ細工)
13日(日) イスメツニ作り
20日(日) イスメツニ作り・こぼかこ・
パッタン織り・サキ織り・わ
らじ作り
27日(日) イスメツニ作り・こぼかこ・
パッタン織り・サキ織り・わ
らじ作り

先人が生活の中から生み出した日用品、そこには機械で作られた物には感じられない良さがあり、温かみがあります。これらの道具は実用の物であり、自らが作れるものであります。これらを民具と呼んでおり、その作り方を正しく習い、後世へ伝えようというのが民芸会の目的です。

このような大きな目的のもとに昭和48年10月、この会が発足しました。会の行事には、会員誰でも気軽に参加できる全員参加行事と、より深く専門的なワラ細工、竹細工、はた織りの実技グループと、実技をもとに文字によつて普及保存を目的とする研究・鑑賞グループがあります。

日本民家園内に事務局をおき、日常の活動は民家園内の古民家を会場に実施しています。



ワラ細工グループ 手仕事としては最も一般的なものです。ワラ製品が日常生活から姿を消したとはいえ、家庭で使えるものがまた沢山あります。作れば作るほど奥の深いものです。



竹細工グループ 竹細工は材料こしらえが熟練を要しますが、竹ザル等は今でも日常生活の中に使われている楽しいもの。いろいろと工夫ができるおもしろさが味があります。



はた織りグループ はたの合数が限られていますので、協同作業となります。色・柄のデザインをはじめ、センスと技術が要求されます。その他草木染もおこなっています。



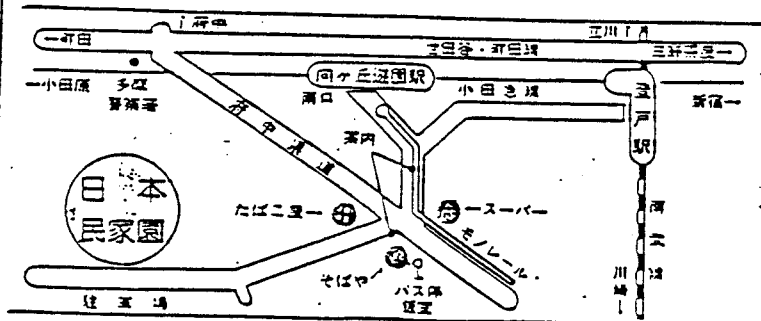
研究・鑑賞グループ 手仕事の技術をわかりやすい文量の図で説明した民具のつくり方シリーズの鑑賞発行をしています。

鑑賞後記

民家園たよりをお届けします。「みんなのみんなえん」をめざして18年、当時の樹木も大きく育ち環境も一変しました。年間16万人が訪れるこの園の動きを皆様幅広くお知らせしたいと思います。ご意見・ご感想をお待ちしております。

交通

- 小田急線「向ヶ丘遊園駅」南口から徒歩12分。(900メートル)
- 南武線「溝ノ口駅」から市バス東戸行・向ヶ丘遊園駅東口行・田園都市線「梶ヶ谷駅」から向ヶ丘遊園駅行「坂道」下車、徒歩8分。



「日本民家園たより」発行 川崎市立 日本民家園 〒214 川崎市多摩区砦形7-1-1 電話 (044) 922 - 2180~1